

●東日本大震災復興特別委員会

平成31年3月19日（火）

{ 復興大臣 渡辺博道 復興庁統括官 末宗徹郎 同 東潔 }

（主な論点）

冒頭、被災地の現状について、渡辺復興大臣の印象を質した。
渡辺大臣は、53の市町村長に会い、現場に行ったが、復興の進捗の度合いにはそれぞれの地域差があると答弁した。

次に、人口減少下の復興につき、明治三陸地震でも、昭和三陸津波、チリ地震津波のときも人口は増加していたが、今回の東日本大震災は人口減少社会で起こったと指摘して、人口減少と復興をどう考えるか、渡辺大臣の見解を質した。

渡辺大臣は、復興基本計画の見直しでは、人が戻ることを目指すのみならず、外から多くの人を訪れ、定住するような魅力ある地域を創造することが重要だとし、岩手県であれば復興道路、復興支援道路などのインフラ整備や、地域資源を生かした産業、なりわいの再生、コミュニティの再生が重要だと答弁した。

続いて、集中復興期間10年ということで、自治体は復興史を作り始めているが、瓦礫の処分など、初期対応がどうであったかという問題もやって頂きたいとした上で、総括をして頂きたいと求めて、渡辺大臣の見解を質した。

渡辺大臣は、今から準備をして、総括をしていくと答弁した。

最後に、陸前高田の津波記念公園は、津波博物館としての意味合いも含め、教育の場ともなるので、復興庁として後押しして頂きたいと求めて、質議を締め括った。